

2026 年 5 月 29 日

学校法人三幸学園
大阪ウェディング&ブライダル専門学校
校長 真野 正道 殿

学校関係者評価委員会
委員長 久田 裕也

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 久田 裕也 (飛鳥未来きぼう高等学校 京都キャンパス キャンパス長)
- ② 萩原 千恵子 (株式会社 FLORE 代表取締役)
- ③ 相谷 寿也 (株式会社帝国ホテル 帝国ホテル大阪 営業部宴会課)
- ④ 時任 希望 (2021 年度卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 5 月 28 日 (会場 大阪ビューティーアート専門学校 ヘアメイクルーム)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 大阪ウェディング＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 制野 理恵

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 久田 裕也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

■退学率減少

目標:6.1% 結果:7.6%(41 名)

内訳:1年生 WP 科19名 BD 科 10 名 2年生 WP 科7名 BD 科5名

[退学の主な理由]

目標喪失 15 名

病気・けが 8 名

学校生活不応(人間関係)7 名

進路変更 6 名

病気・けがの中でも精神的疾患の理由が増加

2 年生での退学者の増加(人間関係 6 名／病気怪我 4 名／進路変更1名)

1 年生の間に、目標喪失予防と共に、人間関係構築について対策が必要

2 年次でも継続できるよう、精神的疾患への理解、スクールカウンセラーとの連携が必要

■個別最適化

- ・ハイフレックス授業の導入
 - 登校しているが教室に入れない学生の一時的な利用が見られ、人間関係事由の退学予防につながった
- ・キャリア探究活動
 - 紹介する基準を下げ 1 名実績、目標喪失事由の退学予防へとつながった

■その他

- ・目標:就職率 100% 結果:内定率 99.47%(1名のみ未決定)
 - 内定決定後の指導と共に、内定辞退、早期退職が課題

② 学校関係者評価委員会コメント

＜矢野さん＞(両学科について)

夢を持って入学してくれた学生が卒業できるように目標を立てている。1年生の主な退学理由は、目標喪失や精神疾患だった。2年生の退学者数は、2024 年度は数件だったが 2025 年度は 11 名となった。多様化に対応するために目標喪失となりそうな生徒に対して「キャリア探求活動」として実際の結婚式を見てもらえるよう企業に協力してもらっている。昨年1名の利用があったがその学生は、現在 2 年生として継続ができています。就職に関しては、就職希望者のほとんどが内定を頂けた。しかし、内定後に辞退する学生や早期に退職する事例があるため、改善が必要だと考えている。

＜時任委員＞(両学科について)

先日社内の新入社員の考え方に関する研修を受けた。多様化に対応するための内容が含まれていた。自身が1社目の企業を長く続けたわけではないので、しんどくなる気持ちは理解できる。内定がゴールでなく、充実した学生生活を送れたからこそ長く働くことができていると感じる。

＜相谷委員＞(ウェディングプランナー科について)

価値観が多様化している。ホテル挙式でイメージするのはチャペルや神殿での神前式だと思いますが、近年は挙式だけ、写真だけなどの要望にも対応している。決まったプランを売るのではなく、お客様が何を望んでいるのかを引き出し寄り添った内容が提案できるようにしている。内定後辞退を無くすためには専門学校だけでなく、企業側も人事を中心にできることはやっていく必要があると考えている。

＜萩原委員＞(ブライダルヘアメイク&ドレス科について)

企業側からすると人と協力することが身についていると嬉しい。

＜久田委員長＞(両学科について)

退学理由や退学率は例年と同じくらいなのか？ハイフレックスやスクールカウンセラーの利用をして、退学減少にどのようにつながったか？

<矢野さん>(両学科について)

ハイフレックスの利用者は3人くらいだったが、1人退学し、2人は継続できた。スクールカウンセラーの利用は退学を申し出てから進めるのではなく、早めに利用してもらえるようにしていくことが必要だと考えている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

入学前オープンキャンパスでの保護者会にて理念や方針を理解いただいているものの、入学決定後の説明会はオンデマンド動画のみであることから単位制や学校ルールへの理解はまだ改善の余地がある

② 今後の改善方策

- ・保護者への情報配信ツールであるスクルレを通して時間割、年間スケジュール、単位管理の発信
- ・入学決定後の保護者説明会を対面実施の検討

③ 特記事項

- ・保護者アンケートの回答率は2024年度→2025年度で大幅にアップ(101名→230名)

④ 学校関係者評価委員会コメント

<相谷委員>(両学科について)

保護者アンケート回答率が上昇した理由は何か？

<矢野さん>(両学科について)

保護者相談会の出欠確認を兼ねた内容にしたことが要因だと考えている。

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3

人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・規則としてガイドライン、マニュアルが整っているが、活用頻度、実行頻度を高める必要がある
- ・残業増加、教員自身が実行すべき業務、外部へ委託するもの、担当で完結するものの精査が必要

② 今後の改善方策

- ・会議時間、授業コマ数など、拘束時間の削減
- ・学生登校可能時間の短縮

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜久田委員長＞（両学科について）

学生の退校時間を早い時間へ変更したことによって、何か支障は出ていないか？

＜矢野さん＞（両学科について）

行事が盛んな時期になった際には集まっての練習がしにくくなることは懸念されるが、事前申請制で許可がされれば可能なため、今のところ生徒からの不満はあがっていない。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4

授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・授業の進め方アンケート(学園独自の学生が回答するアンケート)にて、13 項目中 10 項目が同分野姉妹校 12 校中最下位の結果
- ・教員間のレベル、浸透度の差がある為ボトムアップが課題

② 今後の改善方策

- ・全教員での会議内、担任会議内にて研修、好事例共有、ディスカッションの実施
- ・導入・結末のスライドを全教科統一しゴールの明確化、指導すべきポイントの基準を合わせる

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜相谷委員＞:(両学科について)

授業アンケートの結果について、姉妹校の中で最下位などの結果を真摯に受け止めているように感じる。現場では熱意を持って指導するように指示をしている。

＜制野副校長＞(両学科について)

本校の担任も決して手を抜いているわけではない。現場に出た時に困らないようにと思い厳しい指導していたが、多様化に合わせて伝え方を変えていく必要があると考えている。

＜萩原委員＞(両学科について)

現場見学に行った結果、クラス内のほとんどの学生が別の業界へ進路変更になった事例がある。現場見学のやり方も考える必要がある

＜相谷委員＞(ウェディングプランナー科について)

現場で新婦の方の体調が悪かったことがあった。スケジュールが遅れた関係でプラン上できないことが発生した。フォトウェディングで使用するバンケット会場での撮影スケジュールが押してしまう予定となり、次のお客様の使用予

定もあるのでバンケットでの撮影は無しにしようとなったが、その話をホテルスタッフに共有したところ「次のお客様に相談してみます」と臨機応変な対応をしてくれて、まさに現場でのコミュニケーションの大切さと「誰の為に何をするかどうかの目的」を理解したスタッフがいるとお客様満足に繋がる対応が出来ると確信した好事例だった。だからこそ早期退職する人もそうでない人も仕事をする上で「目的」を理解して働くことが大事だと考えている。

＜時任委員＞（両学科について）

アンケートの回答時期や実施時間はいつか？

＜矢野さん＞（両学科について）

各学期の3か月目あたりで、授業内に取得している。

＜時任委員＞（両学科について）

今の新入社員は同期間のつながりが強く、情報共有がすぐに行われる。そのため、他店舗の指導内容との比較が容易になり、「自分の店舗は十分に指導してもらえない」という不満や先入観が生まれやすい状態になるくらいであると聞いている。自分の考えで回答ができるよう環境の変更も検討してはどうか。

（4）学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率の減少、検定合格率、出席率の向上
- ・合格率が下回った検定 9 つ

② 今後の改善方策

- ・オンデマンド科目の検定は担任からも動機付けを実施
- ・キャリア探究活動、学生相談室、ハイフレックス授業の活用

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜矢野さん＞（両学科について）

顕著に下がった検定の授業はオンデマンド形式で実施したものである。意欲が高い生徒はオンデマンドであることを生かし繰り返し動画を見るが、そうでない生徒はオンデマンドであることが生かせていない。意欲を向上させるために、担任からも動機付けが必要だと考えている。

＜久田委員長＞（両学科について）

在籍している高校は毎日登校ではない。そのため、登校した際に様々な職員が声をかけるように工夫している。前年から下回った検定が多いのであれば、評価に1や2を付けた方が良いのではないかと考えている。企業は検定についてどのように考えているか？

＜中川教務課長＞（両学科について）

学生が自分自身で必要・不要を判断しているため、不要と判断した結果、取り組めていないのではないかと考えている。企業は検定についてどのように考えているか？

＜萩原委員＞（ブライダルヘアメイク&ドレス科について）

検定を持っている・持っていないは特に気にしていない。持っているからできるとも思っていない。

＜相谷委員＞（両学科について）

「できる・できない」という能力の評価ではなく、努力ができるという評価としては見ることができる。取得することで学生の自信につながるのではないかと考えている。

＜時任委員＞（両学科について）

現場では資格を持っていることより、臨機応変に対応できることが大事だと考える。在学時は面白くないと感じていたビジネス系の検定やPCスキルが今になって活かしていると感じる。

＜中川教務課長＞（両学科について）

検定を取ることがゴールとならないように教育をしていく。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4

中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・通信制高校出身学生の増加による配慮への理解

入学者数 2024 年入学(14/263) 2025 年入学(34/286)

② 今後の改善方策

・姉妹校や通信制高校教員との連携

・学生相談室への積極的斡旋

・スクールカウンセラーと教員の相談時間の確保

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜矢野さん＞(両学科について)

通信制高校からの入学生が増えている。担任へ相談があった際にスクールカウンセラーへの相談も進めるようにしている。本人とスクールカウンセラーだけでなく担任も含めて相談することもできる。

＜相谷委員＞(両学科について)

企業でも対応窓口を設け、体調面を含めさまざまな相談が出来る体制を取っている。また、指導係は育成対象者に寄り添うような対応を心掛けている。学校内で常に相談出来る環境で過ごすことで、心にゆとりが生まれると就職後も安定した働きに繋がるのではないかと。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

AED を昨年までは職員室に配置していたが、必要時に誰でも対応ができるように廊下に配置した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

近年高校生にとって多種多様な学び方がある中で、ウェディング・ブライダル職業魅力を伝えきることに重点を置き地域広報室と連携をとりながらオープンキャンパスや高校ガイダンスを実施している。

② 今後の改善方策

高校生の状況や環境に合わせた対応を実施（奨学金不安など、学費関係も説明できるように勉強会も実施）

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・生徒の個人情報に関しては職員室内の施錠できる場所にて保管を徹底
- ・クラウド上のデータ管理ルールについて、全教職員に周知徹底している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・十三・神津・西中島地域 子供祭りでのボランティア参加
- ・辻学園行事 ヘアメイク・フオトスタッフでの参加
- ・大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオンリボンステージでパフォーマンス発表
人権をテーマに各校ステージでのパフォーマンス（演劇）
W 校:障害を持った方たちの結婚式

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜相谷委員＞（両学科について）

企業も地域貢献・社会貢献を重要視している。例えばボランティアをすることによって自分とは違った視点を持った人と関わることができる。

＜萩原委員＞（両学科について）

学生にとっても良いことではあるし、企業にとっても良いことがある。例えば、過去対応したお子様が成長し、今度は「入社を希望してくれる」という嬉しい繋がりが生まれたこともある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

考え方や取り組み方などは高校でも上手く伝えることができれば、専門学校や就職後にもつながると感じた。技術や知識はもちろん大事だが、今日のお話を踏まえて「人間力」が大切だと感じた。先日京都大学の教授の講話を聴く機会があり、「AI に負けないこと」について、まさに「人間力」だという内容だった。挨拶が出来たり気持ちを汲み取ったり。そのような面を私たち学校関係者は学生の育成に力を入れていく必要があるのではと思う。